

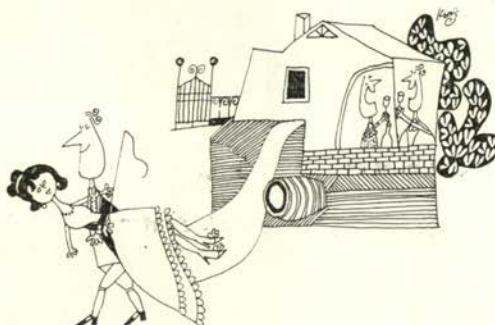
drawing (ドローイング) という言葉は、本来 „ひっぱる“ という意味であるのに、その部屋 drawing room (ドローリングルーム) がどうして客間と呼ばれるのか、あなたご存じでしょうか。これは実にイギリス有産階級の酒宴から生まれた熟語なのです。いまで歐米ではデザートを終えてしばらくすると、ジャマつけな女性が、(ごめんなさい、これ

グラスが男ばかりの席を右から順に廻され気楽な雰囲気をつくります。シガレットも正餐の席では許されず、ここではじめて喫うことできます。ところで話をご婦人のほうへ移して、彼女たちが次の間へ退席しました。その応接室を名づけて、退ぞく室と呼ばれるようになったといふ説もあるのですが、事実はそんなナマヤサシイものではありません。

忠実な馬丁たちはこうしておいてただちに宴会場へとつて返し、食卓の下にブッ倒れているそれをのご主人様をつかぎあげ、馬車にのせると堂々と帰館の途についた——と、まあこういうような次第で、ドロウイング・ルームの語源、嘘のような本当の話でした。オシマイ。

洋酒はなしのタネ

藤本義一
え・佐々木侃司



カクテルの作り方

・ミントフラッペ

Mint Frappe

ミントはペペーミントのこと。フランベとは、コマかくくだいた氷の上からこれをかけ、ストローでチューチューアウティンエージャー受けた馬丁たちは、自分のつかえる主人のツレアイを窓から抱いてひきづり出し、ます何はともあり馬車で邸宅なり居城なりへつれ帰ったというのです。

ドロウイングの言葉そのままにひきづり出す部屋であつたのが食堂につらなつた応接室。豪華な夜

はアチラの話なんです) 別室へ移され、このときを待っていた男たち、すなわち、どこへ行くにもウルサイのがついていてどうにもならないアワレな男性諸君は、『さあ待つてました』とばかり、女が好みない政治の話や、『まあ、イヤラシイノ』と腕をツネラレそうなケンカラヌ話をはじめるのです。そして、このときにボルト酒(ボルタル産の本場ポートワイン)の



マタム コンパンワ

MADAME MARCEAUX

マダムマルソー



妻もつれていったし、初誕生ま
えの長男もここでジュースを飲ん
だ。帰るときには、マダムは必ず
「おくさまにおよろしく、今度は
三人ご一諸で」という。ことを知
っている妻は妻で「マダム・マル
ソー」だったら、寄つていらつしゃ
い」というし私もそれで満足だか
らもっぱらここを愛用している。
場所は阪急西口北入る。

バーの扉をおして入ると、世の男性諸君はとたんに幼稚園児となるようだ。元来、保母さんというのは女。ダダをこねるヤンチャくれや、いつもメソメソしているイクジなしを、「おお、ヨチヨチ」と、きげんよく遊ばせておかねばならない。

ところでこの「マダム・マルソー」だが、マダムといい、何年たつてもここにいる若いふたりの女のコといい、文部大臣あたりから麦彰されてもいいくらい、大きなこどもたち上手にあやしてくれることなど、あいだはいつもひとりでいい、ひつそり酒をたのしんでいるが、そんなときはほたらかし……それがまたとてもありがたいし、話しかけてみると、どんな話題でも豊富でキチンと受け答えをしてくれる。

たまに二、三人をつれていくとお客様には「ホホー」と感心するくらいの愛想よくしてくれ、ヨイヨイとやきたくなるくらい。そのせいで店を出たら友人には「おまえ、なかなかモテてるやないか」とひやかされたり、これすべてマダムの腕。もちろん、どの客に対しても同様である。

流行を創る店

神戸には“伝統とシニセ”を誇る老舗が多い。ショッピング・センター元町通一丁目浜側一ちょうど二丁目との堺にある工芸品とアクセサリーの店「イクシマヤ」もその一つ。明治初めから元町の発展とともに生きてきた古いお店である。向って右がアクセサリー、左が工芸品の店と、昨年秋に改装された三十坪のお店は、一目で店内全体が見渡せるように工夫されており、昨年の神戸市舗コンクールに秀賞三店の一つとして市長表彰を受けたのもうなづける。

百パーセントが若い女性で、ぎわう“アクセサリーの店”には、首飾り、スカーフ、ブローチなど美しいアクセサリーが豊富にそろっている。中年のご夫婦や、外人層に人気のある“工芸品の店”には、渋い銘入りの茶碗や、陶器木彫品が陳列されていて、とても静かなムードを感じさせてくれる。主人の生島敏彦さん（48）は、三十過ぎてひとくじらの人生を歩み、見渡せるように工夫されており、昨年の神戸市舗コンクールに秀賞三店の一つとして市長表彰を受けたのもうなづける。

アクセサリー工芸品の店 元町1丁目 イクシマヤ

一店紹介



落ついた静かな店に美しいお嬢さんの応待が魅力的です

お店の雰囲気は落着いて静か、それでいて気軽にひやかしもできるのが特色。また、美しいお嬢さんたちが、気持よく応待してくれるのもこの店の魅力の一つ。流行を創り出すことを念頭に仕入れの勉強をしてらっしゃるそうだが、そういえば、戦後いち早くオルゴールを売り出したのはここが最初だった。お客様へのサービスもゆきとどき、アフター・サービスはもちろん、市内はじめからいまのお仕事を受け継がれています。そこで、商売的な匂いのない、静かなお人柄である。

（五十嵐）



渡辺場

細野耕三 西勝え

△前回までのあらすじ△

被害者の吉田は港湾病院で死亡していた。荷役事故による打撲傷が死因。遺体はお骨になっていた。私は検査協会でその日の積荷が砂糖だったことをつきとめた。全港湾労組でK運輸の線を洗い、一つ一つ足で調べまくった。二次下請の恩田組までは判つたが、そのあとが擱めない。私は吉田の身元を洗うためにドヤ廻りをはじめた。私もアンコになり澄してある。

そして五日目の朝の事だ。私は国産波止場裏の細い露路に面した私設の三十円宿を訪ねた。この地域は地図の上ではすでに区割整理されたことになっていた。だから私は、何度も近くまで見逃していたのだ。たてつけの悪いガラス戸を開けると、汗と体臭のすえた異様な臭いが、鼻をこすりあげてきた。

入口に荒板で仕切った四畳半ほどの部屋がある。開け放された戸の一部に小窓が切っており受付と貼紙してあった。

中年の女が子供に乳を含ませながら、不愛想に私を見上げた。

「アカンな」

「だけど、吉田が直行でいつとつたる組の景気はどうや」

「まだ、吉田が直行でいつとつたる」

「おばさん、吉田の友達はいるかい」

「吉田、名前なんか判らへんな。奥へ行ってごろごろしている連中に聞いてみ、花やつとるわ」

女は面倒臭さそうに答えると、汗ばんだ乳房を子供の口から引き離して、抱きかえた。

私は「じあ」と声をかけて中にはいった。

中央に半間ほどの通路があつて、両側は四段の眷欄式ベッドになつていて。収容できる人員は四十人程であろう。半裸で熟睡している者、表紙が磨り切れている週間誌をぼんやり見ている者など、夫々が思い思いの姿勢で自分だけの世界を、縦六尺、巾三尺のベッドの中に作っている。

奥にかたまって花札を引いている連中がいる。通路に坐り込んでいるのが四人、両側のベッドから首だけをだして、金を張っているのが六人、その連中は夢中になつていて、私の入ってきたことに気付かないでいた。ゴンゾーだ、丁べだと眼の色を変えてわめきたてている。

私は一番下段のベッドの端に腰をおろすと煙草を一本つけてから何気なくきいた。「兄ちゃん、この頃、恩本

「吉田って」「おい、わいは片の桜に百円だ」

「ほら、競輪狂のよ」

「競輪狂の吉田いうたら、あのトップボイ奴か」

札を配っていた男が答えた。私はしめたと思った。が

出来るだけ彼等の調子に合せて

「そうや、そうや、そのトップボイ奴っちゃ」

「親はでけとる。勝負できるで」「ほらよ沖の浮標を

搔扒って、大阪の屑鉄屋へバイしたら高う売れるつたあ

いつやがな」

私が初めて話かけたアンコは、そう云われて思いだし

たらしく

「ああ、あいつか、それやつたら恩田組やあらへん。

栄組やがな」と下札の目を引きながら答えた。

△栄組！全港湾労働組合で調べてもらつたりストの中に

ある。手配師は誰だ！私はおどりあがる気持を鎮める

のに努力しながら

「栄組でも構へん、おやじに頼んで顔付けできへんか

な」

「アカンやろ、不景気やしな。オヤジさんも腐つたい

うてるで」

「吉田を入れた手配師の」云いかけ、私は失敗った

と思つた。が、もう間に合はなかつた・アンコ達の世界

では手配師という言葉は使わない。案の定、感付かれた

「おい」一人が眼くばせした。

「うむ、ほうか」初めの男が領いた。連中は一齊に緊

張して、私の顔を凝つと見詰めたした。

「おいどうしたい」私は緊急をときほごそうとして声

をかけた。札を配っていた男は少しどモリながら「オッ

さん、オッさんサツの人やろ」

「違うよ」

否定したが、それつきりアンコ達は私の顔色を見てい
るだけで口を利こうとしない。私は自分の不注意を口惜

しがりながら立つた。

然し、栄組の手配師という線はでた。それに彼等が直

感的に警察の者と私を決めてかかった事から想像して、吉田の死因に対する疑惑は殆んど決定的なものになつた。彼等の間では吉田の事件は公然の秘密だったに違いない

私は入口で声をかけた。挨拶のつもりだった。

「おばさん、ありがとう」

「判つたかね」

女は横になつて子供に乳をまだ含ませていた。はだけ

た胸からつやのない両方の乳房がでている。別にかくそ

うともしない。私は一寸足を止められた間の悪さを補う

ように

「ところで、栄組に行つてのオヤジさんは」と聞いた

「隆さんかい」

「隆？ああそう、隆さんだ。何處へ行つたら逢えるか

な」

私は思わず聞き込みに声が震えそうになつた。「さと

られないよう落着くんだ」と何度も自分に云い聞かせ

た。

「辨天浜の大盛屋と違うか。隆さんたら、あすこのオ

カミさんと金を貸しとするさかい」

女は含み笑いをしてから、いま氣付いたように胸を搔

き合せた。

「パチンコじあなればあっこや」

「辨天浜の大盛屋、ありがとう」

「あんた、顔付けしてもらうんか、それやつたら、う

ちでもしてあげるで」

「とにかく、じあ」

私はもう凝つとしていた。未だ何か喋りかけそ

うな女の気配をふり切るように外へでた。アン

コの吉田一手配師の隆一隆が出入している栄組。そして

恩田組、K運輸だ。手配師の隆さえ抑えれば、アンコの

吉田の死因は、はつきりする。

私はいつの間にか走つていた。辨天浜のめし屋街は、すでにひつりしていた。アブレたアンコが四、五人ほ



さんは人がええさかいよう面
倒みよったんや。なんでやろ
つて、うちらよう云うてたん
やけど

「隆さん、きょうくるか
な」

「朝は顔をだしよつたけ
ど」「またパチンコかな」

「多分 そやろけさ、阪急ホ
ールつてのは」私の声はもう
うでるいうてたきかいな

「三ノ宮駅前だね。阪急ホ
ールつてのは」私の声はもう
興奮していたらしい。
「そやめしやのオカミは
急に変った私の言葉に怪げん
そうな顔をしていたが「ちょ
つと、あんた」と顔色を変えた。私は、もう馳けだして
いた。タクシーを止めた。

「やり坐っていた鉄砲（借り）で焼ちうでも呑んだらし
い人が何かまくしたてている、その声が午後に近い陽
射中での虚ろにあたりに拡がる。

「大盛屋」「大盛屋」私は口の中で繰返しながら、並んで
いる屋台店に近いめし屋を一軒一軒たしかめて歩いた
あった。博奕ではないが、ついている時は馬鹿づきするも
ので、私はここでも思わず聞き込みをすることができた
吉田は大盛屋にめし代を借金していたのだ

「死んでしもうたものの悪口いうわけやあらへんけど
しようもない奴や。どの店でも鉄砲はするし、うちだけ
でも千円からありますねん。こない一杯二十円のめしで
つしやろ、千円も倒されたら、もうわややがな」
「だけど、吉田も運の悪い奴っちゃん」

「手くせが、ようないさかいな、あの時でも砂糖をバ
ケツ一杯搔扒うたつていいまつせ。そんな男やのに、隆

た。

「隆さん」

はじいた玉を眼で追っていた彼は、私の声で振り返つ

◆ 読者サロン ◆



南陽子(灘区)

・「神戸っ子」題名も中味のスマートさも気に入りました。私は海の向うの上海生まれですが、神戸がいいで、自分では大きいに「神戸っ子」を気っています。

山の緑と海の碧にはさまれた、

細長い清潔な街、神戸が好きだから、誰に頼まれたのでもないのに時にイバッテみせます。「ユトリ

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

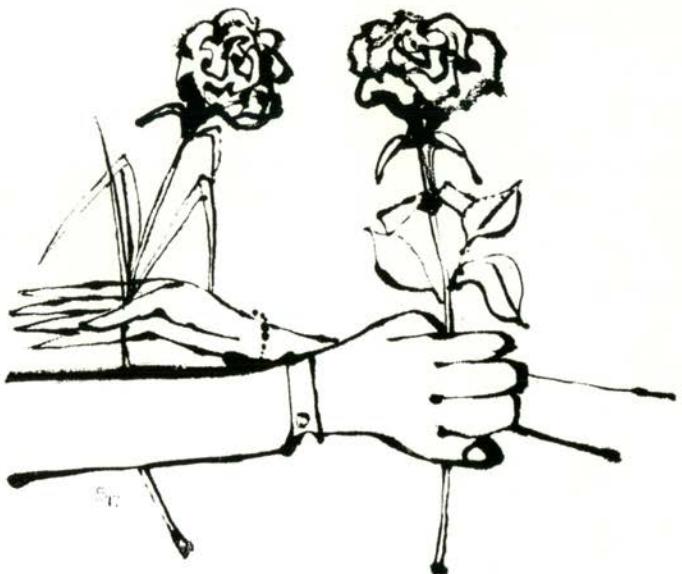
ー

ー

ー

ー

編集後記



6月号の発行に色々とお世話いただいた方々

雄一　英平夫　築巣　孝潤　二介郎　七勝夫　美男二　雄慧
重正　真ツ　良芳喜　義勝　孝健達
木並　崎淵　西磯林　林寺路　川川村中井西賀富井地崎杉
青柳岡大川小小古小塩白滝田田永中芳福松宮百若

三宮ライオンズクラブ

・デザイナーのT君が先月末、東京の「銀座百点」の編集室へ顔つなぎに行きました。T君曰ク「やっぱり東京はゴイ。神戸つ子もガンバラな」K氏答えて「がん張つてまっせ。みんな一人三役でござんな」(おわび)五月号で小磯先生の巴里文中「街路樹の植え替えは午後四時から」は午前四時の間違いでしたので訂正させて頂きます)

・神戸市にまたマルセイユという新しい姉妹ができます。シアトル同様、仲良くやつていきましょういかがでしょう。今月はその姉都市提携を記念してフランスマードをおとどけした積りですが

・七月九日、国際会館大ホールで神戸三宮ライオンズ・クラブ主催の「チャーターナイト」があります。全国から約千五百人の代表が出席されます。「神戸つ子」では、さつくこれらの人たちのガイド役を買って出ることになりました。

「大丈夫かい」と心配なく神戸のことが手にとるようにわかる「神戸つ子」をもれなくプレゼントするんですよ。

あまり神戸ばかりを贅めでは、大阪の人に叱られないかな。もっとも司馬先生得意の「忍術」でもまく体をかわしてくださいることでしよう。連載「ここに神戸がある」にふさわしいプランがあれば教えてくださいね。

北欧の銘菓

ピラミッドケーキ

バウムクーフェン(ドイツ名)

クッキー

ムンデッド

ユーハイム
コンフェクト

工 場 神戸市葺合区熊内町1丁目・②2336

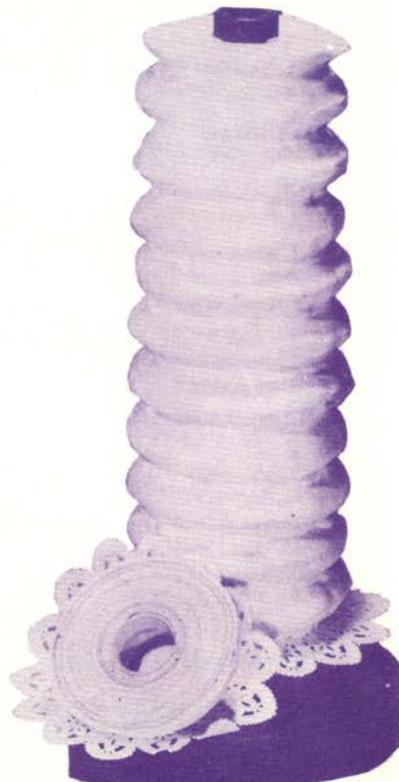
神戸市三宮町2丁目・③4314

三 宮 店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)③0156・7343

芦 屋 店 省線芦屋駅前通り・芦屋5605

大 丸 店 神 戸 大 丸 地 階 銘 菓 街 部

阪 急 店 大 阪 阪 急 地 階 食 料 品 部



Refine NIKKETEX



高級紳士服地

リファイン ニッケテックス

発売元／竹馬産業株式会社

神戸・元町通3丁目 ③ 5521-5

発行所／神戸市兵庫区御幸通八丁目九ノ一 毎月一回
昭和三十六年六月十五日発行

神戸国際会館二階
編集／五十嵐恭子

TEL(2)70337
発行／小泉康夫

価額七〇〇円
一送料一〇〇円